

たるみ歯科通信

2021年8月号 NO.128

こんにちは。歯科助手の坂口です。

我が家では毎日のオリンピックの応援が日課になっています。たくさんの感動を届けてくれる選手の皆さんには最後まで頑張ってもらいたいです。

さて、お子さんたちは夏休み真っただ中。

この時期、外で遊ぶ機会が多くなると、残念ながらお口の中をケガして来院されるお子さんが増えてしまいます。そこで今月の通信は「**歯の外傷**」についてお伝えします。



お子さんは思いもよらない場所でケガをしてしまいます。

外傷が起こったら、まずは、

「**頭を打っていないか**」「**意識はしっかりしているか**」を確認してください。

万一、大きなケガがあればもちろんそちらが先決です。

他にケガがなければ、お口の中を確認して歯科医院に連絡してください。

その際、分かる範囲で構いませんので、ケガの状況・出血の有無など外傷を受けた歯の状態を伝えて、歯科医院から指示をもらってください。

強く歯を打った場合には特に大きな症状がなくても歯科を受診するようにしてください。

※ 休日や夜間にケガをした場合は、休日歯科診療所や救急病院に連絡してください。

こんな時は・・・

・出血があったり、歯が動いたりする！

歯をぶつけた時は、歯ぐきから出血したり、歯がぐらぐら揺れたりすることがあります。出血がある場合は清潔なガーゼなどで傷を押さえてください。歯の揺れが大きい場合は固定した方がいい場合があります。

・歯が欠けた！

歯が欠けても歯の破片があればくっつけることがあります。大きく欠けた時は、歯の中の神経が出ていることもあります。歯が欠けた時は破片をもってできるだけ早く歯科を受診してください。



・歯が抜けた！

抜けた乳歯は戻せないことが多いですが、永久歯はお口の中に戻せることがありますので、歯科医院に抜けた歯を持って行ってください。

抜けた歯の根っこは**さわらず**、**こすらず**、未開封の牛乳や保存液に浸けて持って行ってください。その場に牛乳などがなければ、飲み込まないように口の中（頬と歯ぐきの間）に入れてください。

歯が抜けた時は歯科医院にすぐ連絡をして指示をもらってください。

受傷後しばらくしてから右の写真のように歯が変色したり、神経が傷んだりすることもありますし、乳歯の外傷では特に症状がなくても将来永久歯に生えかわる時にトラブルを起こすこともありますので、**外傷を受けた場合には定期的な経過観察が必要です。**



☆ 12日(木)から15日(日)まで夏期休暇をいただきます。

☆ 院内研修のため20日(金)午前 は休診 といたします。